南三陸町とモアイ像の関わりについて

南三陸町には、イースター島のトゥキー族が製作した“本物”のモアイ像があります。
　このモアイは、チリと南三陸町の友好の証、震災復興のシンボルとして２０１３年 5 月２５日に贈られたものです。目は白サンゴと黒曜石で作られており、プカオと呼ばれる帽子のようなものが乗っています。目が入るとモアイにマナ（霊力）が宿ると言われています。高さ３メートル、重さ２トンあります。

チリから贈られたモアイ像

2013 年 5 月 25 日、多くの方々に見守られながら
門外不出と言われてきた「イースター島のモアイ像」が、
遥々太平洋を越え、南三陸町にやってきました。

そのきっかけは 1960 年 5 月 24 日未明に発生した
チリ地震津波にさかのぼります。当時の壊滅的な被害から共に
復興を目指した友好の証を後世に伝えるため、1990 年には国鳥
コンドルの碑がチリから贈られ、また、1991 年にはチリ人の彫刻家
によるモアイ像が制作され松原公園に設置されていました。

2011 年 3 月。東日本大震災の巨大津波は、数トンもあるモアイ像でさえも簡単に飲み込みました。しばらくした後、瓦礫の中から発見されたモアイ像は、モアイ像をモチーフにして地域おこしに取り組む、志津川高等学校の敷地内に移設されました。この様子を知った日智経済委員会チリ国内委員会は、再び復興を目指す南三陸町に新たなモアイ像を設置しようと、イースター島の長老会などに協力を呼び掛けてくださいました。

これまで、イースター島の石を使い彫られたモアイ像が、島外に出たことはありませんでした。しかし、かつて倒れてバラバラになっていたモアイ像を、日本人がもとの姿に建て直す作業の支援をしたことがご縁になり、イースター島初のプロジェクトが進められ、約 17,000 ㎞の距離を超えて、再びこの地にモアイ像は戻ってきたのです。

「モアイ」は、イースター島のラパヌイ語で「未来に生きる」という意味を持っています。

南三陸町のモアイ像には、門外不出の大切なものを贈ってくれたチリ共和国とイースター島の人たちやモアイ像再建のため、力を尽くしてくださった企業・団体、その他多くの人たちの思いが込められています。

未来に生きる南三陸を、遠い未来まで勇気づけ、見守り続けることでしょう。

南三陸さんさん商店街

観光情報についてはこちらをご覧ください。

南三陸町観光協会　検索

南三陸町観光協会公式ウェブサイト
http://www.m-kankou.jp